

西日本インカレ（合同研究会）2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ） ナンゼン	フリガナ） ケイエイ	フリガナ） アンドウ フミエ
南山 大学	経営 学部	安藤 史江 ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ） チーム ダルマ	フリガナ） シバヤマ クララ	6	無
チーム DARUMA	柴山 久良々		

研究テーマ（発表タイトル）

転ばぬ先のキャリア教育 ～DARUMA の提案～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

長期的な視点でキャリアを考えられる機会を与えることで、企業と学生間の情報の非対称性が埋まり、就職活動のミスマッチが減る。よって、双方にとって WIN-WIN な関係作りをすることができる。

インターンシップを代表例とするRJP理論に基づいた採用戦略がとられているが、それはあくまで自分1人のキャリアに焦点を当てたものであり、結婚、出産、介護のような人生のイベントを想定していない。子育てや転勤など不測の事態が起きた時に、自分が人生をどう描けるのか、就職活動をより長期的な視点で見る必要がある。

そこで今回、長期的なキャリアを考える場を設けると、学生の意識がどう変わるのか、独自の企画を通して検証した。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

採用時のミスマッチを防ぐためRJPが提唱されているが、学生と企業には未だ情報の非対称性が存在している。マイナビによる離職する要因の上位三つに労働時間、福利厚生、上司との関係性が挙げられる一方で、私たちが実際に大学生に行ったアンケートでは就職先を決める指標の上位に給料、興味ある仕事、安定性が挙がり、学生が考慮していない点で離職が生じている。つまり多くの学生が考慮している点だけでは、その企業と就職後の自分のキャリアイメージがマッチしているか見抜くのは難しいと言える。

そのギャップを埋めるためにRJPに取り組んでいる企業は年々増加しているが、短期的な情報の非対称性を解消するものであり、パートナーや家族との人生設計など長期的な情報の非対称性を解消するには至っていない。

3. 研究テーマの課題

現在ある学校の就職支援には、就職後のキャリアを考える機会が不足している。そもそも学生も就職後のキャリアに関しては意識が低いため、自然と大学も就職のためのプログラムが多くなっている。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

学校に長期的にキャリアを考える機会があれば、企業がRJPで与える短期的な情報（給料や業務内容など）に対して、就

職後どのようなキャリアを歩むか、情報の非対称性を解消しようと学生側からの積極的なアプローチが見られるようになると思う。アプローチの例として、現在付き合っている人と、就職後のお互いのキャリアについて話す、ということを挙げる。実際に私たちが行ったアンケートでは、付き合っている人と就職後のお互いのキャリアの話をしたことがある、と答えた四年生は 44%に留まっており (N=29)、仕事が始まってからパートナーの転職によって仕事を辞めざるを得なくなった、というケースは大いに起こりうる。

また、前述の通り学生のキャリアへの意識は低く、大学としてもキャリア支援へのニーズを感じないため、就職支援のプログラムに偏ってしまいやすい。

しかし、ニーズ・関心が低いからこそ大学が積極的に取り組み、意識を持たせるべきだと考える。そこで長期的なキャリアプランニングの取り組みの先駆けとして、ワークライフバランスを考えるための機会を設けた。そのイベントを通じて、参加前と参加後ではキャリア形成への意識の変化が見られたため、学校側が就職後のキャリア教育を行う意義があることを立証する。

5. 研究・活動内容 (アンケート調査、商品開発など)

今回は私たちが学校側として、キャリアを考える機会を企画した。10月28日、「ワークライフバランスを考える会」と題して、まず SNS や学内ポスターの掲示などにより一週間の広報活動を行い、参加者を募集した。実施したものは以下の三つで、(1)実際に企業で働く方にワークライフバランスをどのように叶えているのかのインタビュー動画上映 (2)実際に企業で働く方への質疑応答 (3)ワークライフバランスへの意識調査 である。(1)においては、フェイスブックでの公募に応じてくださった計 5 名の方にそれぞれ 1 ~ 2 時間のインタビューを行った。公募の条件としては①育児、または介護を行っている ②それぞれのキャリアを追求しながらワークライフバランスにある程度満足している である。(2)においては、(1)に該当する方一名に実際にお越しいただいた。(3)においては、イベント参加後に、企業を選ぶ際に考慮する点や、人生におけるパートナーや家族との突発的な出来事まで組み込んで考えるきっかけになったか、などの意識変化を見るアンケートを行った (N=25)。また、イベントに参加しなかった学生に対しても同じ項目のアンケート調査を実施し (N=132)、イベントの参加者と未参加者で回答傾向に違いが認められるか、確認を行った。

6. 結果や今後の取り組み

今回の施策では朝行ったことで、元々ワークライフバランスに関心のある学生 30 人が集まった。しかし本研究では、これだけ近年注目されているにも関わらず、ワークライフバランスという言葉すら知らない大学生がいるということ、研究の契機としていた関係上、本来は、就職後のことはもちろん、働くということに関して、どちらかといえば意識の低い学生に対して、今回と同様に取り組みを行う意義が大きいと考える。そこで、今後は何気なく参加できる時間帯 (昼食時など) に行き、より多くの学生を被験者として意識の変化が見られるか試す意義があると思う。

意識調査の結果から、今回の施策は多くの参加者にとってキャリアを考える機会になった、ということが分かった。しかし、「考えるきっかけにはなったが、具体的なビジョンは見えない」と答えた学生が参加者のうち半数を占める結果となったため、次回以降の内容に改善の必要がある。

7. 参考文献

・コトバンク (2016/11/05)

<https://kotobank.jp/word/%E6%83%85%E5%A0%B1%E3%81%AE%E9%9D%9E%E5%AF%BE%E7%A7%B0%E6%80%A7-178907>

・JAIC (2016/11/05)

http://college.e-jinzai.co.jp/useful/business_column/effect-of-realistic-job-preview

・マイナビニュース (2016/11/05) <http://news.mynavi.jp/news/2016/06/24/373/>

西日本インカレ事務局への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、西日本インカレ事務局への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までを渡します。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※その他、注意点については「企画シート・パワーポイントの作成および提出について」をご参照ください。